



大図研京都ワンディセミナーのご案内

テーマ：『サービス向上・業務効率化に使えるアプリを企画し試行提供する』

概要：私たちが日々仕事をしていく中で「こんなシステム(機能)があったらいいのにな」と思ったり、「こんなツール(サービス)があったら利用者にもっと便利に使ってもらえるのにな」と思ったことはないでしょうか？既存のシステムや Web サービスではあと一歩が足りない、そんなもどかしい思いに駆られたことが少なからずあると思います。そのような現場の問題意識を元に、実際に使えるアプリを開発しようと取り組まれたのが「図書系職員のためのアプリケーション開発講習会」(東京大学)です。今回はこの講習会に携わった前田朗氏をお招きして、開催に至るまでの裏話や、実際に使われているアプリを見せていただきながら、現場の問題意識をアプリ企画・開発へどう繋げていくのか、そして課題解決型の講習会が職員に与える影響などを考察していきます。

★「図書系職員のためのアプリケーション開発講習会」成果

<https://mbc.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/products.html>

講師：前田朗氏（東京大学社会科学研究所図書室）

日時：2010年3月22日（月・祝） 13:30～16:40（受付開始13:15～）

※終了後、懇親会を予定しております。

会場：京都市国際交流会館 第3・4会議室（3階）

TEL:075-752-3010（地下鉄東西線蹴上駅 徒歩約6分）

<http://www.kcif.or.jp/>（アクセス：<http://www.kcif.or.jp/jp/access/>）

主催：大学図書館問題研究会 京都支部

参加費：大図研会員は無料 / 非会員は500円（参加費は当日、会場にていただきます。）

申込方法：事前申込制とさせていただきます。3月18日（木）までに、次のいずれかの方法でお申込ください。申込多数の場合、会場の収容人数を考慮し、早めに締め切らせていただくことがあります。

- ① 大図研京都支部のサイトから、ワンディセミナー申込フォームで申し込む
- ② 支部委員会 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp) 宛に(1)お名前、(2)ご所属、(3)大図研の会員であるか否か、(4)懇親会に参加するか否か、(5)E-mail を知らせる
- ③ 奈良教育大学学術情報研究センター図書館 赤澤久弥 (FAX:0742-27-9147) 宛に上記の(1)から(4)を知らせる

ご不明な点などございましたら、京都支部 支部委員会 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp) までお問合せください。なお、京都支部では、当日の会場設営などをお手伝いいただける方を募集しています。お手伝いいただける方は、12時50分頃に会場前にお集まりください。

【目次】

大学図書館問題研究会京都支部 ワンディセミナーのご案内	...	1
大図研京都ワンディセミナー参加報告 はじめての大図研	谷 航	...
第11回図書館総合展報告：二度の出展を通して感じたこと	池田 貴儀	...
		4

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：dtkk@rg7.so-net.ne.jp（大学図書館問題研究会京都支部）

URL：<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm>

大図研京都ワンディセミナー

「これからの大学図書館について考える:そのための視点と手法」 参加報告

はじめての大図研

谷 航

はじめに

井上創造先生（九州工業大学）のお話を、わたしがどのように受け取ったのか。

1 これからの大学図書館について考えるための、視点

今ある図書館業務やサービスは、本当に図書館員にしかできないことなのか。図書館員でなくてもいいのではないか。図書館員の存在意義を問うために、今ある業務をなくす、という想像をしてみよう。その上で、それでも存在し続けようじゃないか。

1-1 問題意識

そもそも図書館サービスのライバルは図書館の外にいる。Google など。彼らは10億人をサービス対象にして、1人1円とれたら10億円のサービスがペイできる、そんな考えで次々と新しいサービスを提供してくる。そんな彼らに対抗して、図書館員はどんなサービスを提供していくのか。今ある業務だけでは、どんどん取って代わられて、居場所が無くなってしまわないか。

1-2 例えば

契約をやっているだけなら、経理係に任せればいい。自動書庫なら出納する人も減らせる。Amazonのような労働集約型の図書館があれば、現在ほどの数も必要ではなくなるだろうし、併せて、ホログラム書架や電子ペーパーが進めば、今ある図書館というのは、だいぶなくせるのではないか。

1-3 ではどうするか

「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず」というように、個別の業務をなくしても、また新たな業務を生み出して、形を変えても在り続ける。「成長する有機体(ランガナタン)」を実践していく。つまり、図書館員は、常に自ら問題を発掘し、それを解決するために何を為すべきか考え、考えたことを企画実践していく、そんなことを延々と繰り返していく必要があるのではないか。

2 これからの大学図書館について考えるための、手法

自ら問題を発掘するといっても、ただ漠然と考えていては、なかなか進まない。そこで井上先生が提案されたのは、図書館の基本的要素である「人」「本」「データ」「環境」といった単語を組み合わせて文章を考えてみる、というものでした。

2-1 わたしが考えた文章、あなたなら？

「人は本を読んで成長する」、「本が人によって書かれる」、「人はデータで把握する」、「データと本が人に使われる」、「人は環境によって変わる」、「環境は人がつくる」など。

2-2 問題意識

上で考えた文章、一人がいくつも考えついたであろう文章、複数人だとおそろしい数になるであろう文章。この文章の数だけ、図書館が、図書館の姿があってもいいのではないか。

つまり、「人は図書館で本を読んで成長する」、「図書館で本が人によって書かれる」、「人は図書館でデータを把握する」、「図書館でデータと本が人に使われる」、「人は図書館という環境によって変わる」、「図書館という環境は人がつくる」などなど。

これまでの図書館というのは、これらいくつもの図書館のカタチから、排架と検索に偏って考え過ぎてきたのではないか。もっともっとできることはあるのではないか。

2-3 補足

常に自らの問題を発掘し、それを解決するために何を為すべきかを考え、考えたこと自らを企画実践していく、そんなことを延々と繰り返していくこと。それを、「PDCAサイクル」と表現されることもあります。大切なのは分析力と行動力を持つ図書館員になること。

自ら問題を発掘し、それらの問題を解決するために行動する時間をつくる。その時間をつくるために、業務といわれる今の仕事を圧縮する。こうした目的があつての、手段としてのITや効率化である。何のために効率化するのか。

3 グループワーク

ここから話が変わります。当日は、以上のお話をうかがった後にグループワークを行いました。

3-1 グループワークの設定

いくつかのグループに分かれたのですが、誰とグループになるかは予め決められていました。普段とは立場を入れ替えて、各グループはベンダーとなり、お客さんである図書館に企画提案を発表するというもの。上記のお話をふまえて、ベンダーである我々は、お客さんである図書館の問題を発掘し、それを解決するための提案をする。ミソは、夢物語ではなく、実現とペイできるだけのコストも考える、という点。素晴らしい提案でもコストを考えてないものはダメだし、また実際にお金を出してでも買いたいと思わせるだけの魅力のある商品でないとダメ。

3-2 うちのグループワーク

そこでうちの班では、利用者にウェブ上の場所を貸してそこに貸出なりウェブの閲覧履歴なりを蓄積する。そして利用者から場所代をいただく。蓄積した情報は個人情報に配慮しながら第三者にも利用できるカタチにして、その人たちからも利用料をいただく。コストは1館だけでなく、10館にこのシステムを売ってペイしよう、11館以上に売れば利益が上がるでしょう、ということを考えて発表しました。

3-3 グループワークの感想

グループは5人で、内1人は知り合い、という状態でした。もう少し、本題に入る前にコミュニケーションを取れる時間があつたなら、もっといいグループワークになっていたのではないかと感じました。が、内容はともかく、日常の業務では個人的に考えることはあつても、なかなかこうした話を集まってする機会もないので、できたら現状報告に終始する会議だけでなく、こうした問題解決のための具体的なアイデアを一つ出す、というグループワークも取り入れていけたらな、と思いました。

グループワークではベンダーとなった我々図書館員ですが、実際のベンダーは図書館業務の経験が、まずないです。そこで普段はベンダーから企画してもらっている我々図書館員ですが、業務経験を活かして、ベンダーに、こんなん作って、という逆企画をすれば、それはベンダーにとってかなり貴重な情報となる。また図書館としても、いくつかの図書館で共同提案できれば、ベンダーがいくつもの図書館に売ってペイすることを考えてやってくれたなら、自館の問題を自館だけのお金で解決できなかった問題を、能動的に解決する手段になるかもしれない。

おわりに

刺激的なお話を聞いた後すぐにグループワークでやってみる、という今回のセミナーは非常におもしろかったです。

提供していただいた大図研京都支部のみなさま、お話いただいた井上創造先生、一緒にグループワークをさせていただいた皆さま、懇親会でご一緒した皆さま、ありがとうございます。楽しかったです。大図研京都支部の、今後ますますのご発展を祈念しています。

たに わたる (Lifo)

著者の希望により非公開になっております。

著者の希望により非公開になっております。

著者の希望により非公開になっております。

著者の希望により非公開になっております。

著者の希望により非公開になっております。

◇ 会費納入のお願い ◇

会員みなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に2009年度(大図研会計年度2009.07 - 2010.06)に入っておりますので、2009年度の会費の納入をお願い致します。また、2008年度以前の会費をお納めいただけていない会員みなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

会費は、¥7,000 (大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000)です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp)、または支部委員(組織・財政担当)の渡邊伸彦(〒606-8317 京都市左京区吉田本町 京都大学附属図書館資料管理掛 気付 渡邊宛 電話：075-753-2647)まで。